



## プログラム①

～研究成果をJASに②～

# フードチェーン情報公表

# 農産物JAS

一般社団法人スマートフードチェーン推進機構 理事 名取 雅彦氏

FAMIC本部横浜事務所 規格検査課 担当者

独立行政法人農林水産消費安全技術センター

Food and Agricultural Materials Inspection Center (コミュニケーションネーム : FAMIC)

- 1. JASにできること**
- 2. フードチェーン情報公表農産物JASについて**
- 3. フードチェーン公表農産物JASの概要**
  - 研究開発の出口戦略としての標準化 –**
- 4. フードチェーン情報公表農産物JASの利用**
  - JASアプリを中心に –**
- 5. 研究開発の出口戦略としてのJAS化の意義**

## 1. JASにできること

## 2. フードチェーン情報公表農産物JASについて

## 3. フードチェーン公表農産物JASの概要

－ 研究開発の出口戦略としての標準化－

## 4. フードチェーン情報公表農産物JASの利用

－ JASアプリを中心に－

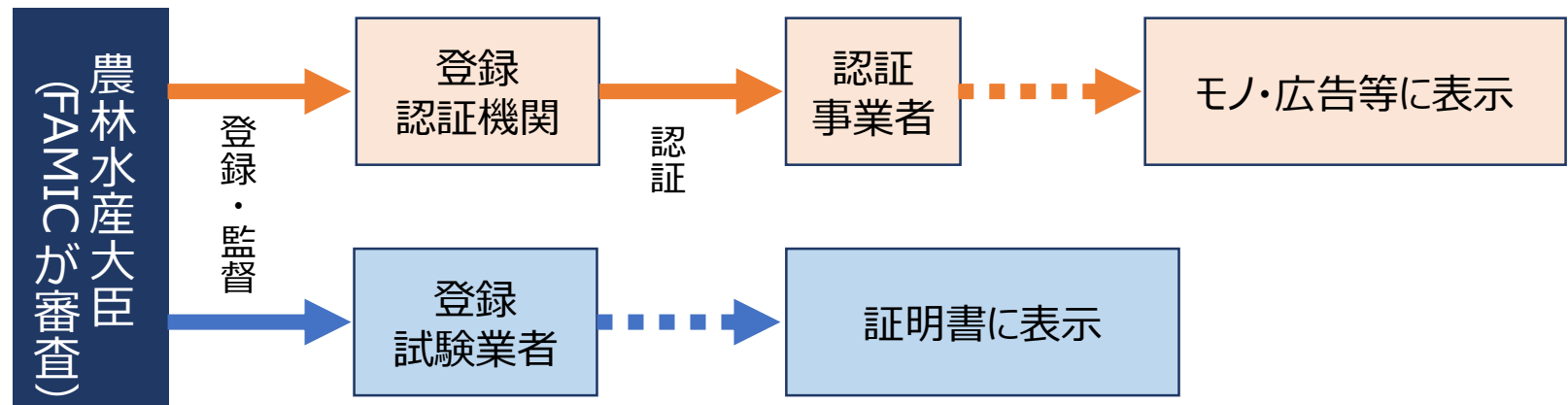
## 5. 研究開発の出口戦略としてのJAS化の意義

- ◆ 日本農林規格（Japanese Agricultural Standards）の略で、農林水産・食品分野において、農林水産大臣が定める国家規格
- ◆ 令和5年6月15日現在、92規格のJASが制定
- ◆ 平準化規格か／特色ある規格かといった観点から3種類のJASマークと、試験の結果に付けるマークが存在



## JASマークをつけるには

- ◆ JAS制度には、①モノ・サービス・取組などが規格に適合していることを第三者が確認する認証制度、②試験結果の信頼性を担保するための試験所の能力を確認する試験所制度が存在
- ◆ 認証を受けた事業者や、登録された試験業者のみがJASマーク利用可能とすることで、マークの信頼性を確保



# JASにできること（活用事例）

- ◆ 事業者団体等からの提案により、JASの制定が可能
- ◆ 幅広いタイプの規格を作成できる（モノの品質、事業者の能力、試験方法等）

新商品  
新技術

民間認証

業界の  
ルール

最新の  
研究成果

伝統製法

ポスト  
コロナ

...

JAS化

国家規格で  
ブランディング

特色ある製品を  
差別化

輸出において  
ジャパंकオリティを  
売りに

共通の“モノサシ”  
（試験方法）で  
評価環境を整備

第三者認証制度で  
信頼性を向上

業界全体の  
レベルアップ

“新たな価値軸”  
を提案して  
市場を開拓

共通の用語で  
取引の円滑化

1. JASにできること
- 2. フードチェーン情報公表農産物JASについて**
3. フードチェーン公表農産物JASの概要
  - 研究開発の出口戦略としての標準化 –
4. フードチェーン情報公表農産物JASの利用
  - JASアプリを中心に –
5. 研究開発の出口戦略としてのJAS化の意義

## 現 状

- 「農産物の生産者情報や流通情報を知りたい。」という消費者ニーズと、「流通行程における適切な管理が見える化して付加価値の向上につなげたい。」という事業者ニーズが存在。
- 海外市場では、日本産であることの疑わしい農産物が出回っている事例があることから、日本産品のブランド形成や、輸出の商談に当たって不利益を被っているところ。
- 農産物の生産から販売までの一貫したデータ情報連携基盤「スマートフードチェーンプラットフォーム（SFP）」が構築され、社会実装を予定。



## 規格の概要

- 農産物の出荷時の品質を維持するために、出荷から小売店等における入荷までの流通行程管理基準（温度、湿度、衝撃等）を品目（レタス、メロン、ぶどう）ごとに規定。
- 流通行程管理基準の適用状況を含む、農産物の履歴、適用、移動及び所在に係る情報「フードチェーン情報」について、記録、保存及び公表するための要求事項を規定。



## 効 果

- SFPの社会実装の推進として本JASが活用されることにより、当該農産物の「フードチェーン情報」が公表・見える化され、消費者ニーズと事業者ニーズがマッチング。
- 国内需要のみならず、海外市場における日本産品のブランド形成や、輸出の商談に活用。

- 本JASは流通行程管理JASとなります。
- 農産物の品質を維持するために流通行程を適切に管理し、流通行程管理記録を保存及び公表した製品にJASマークが貼付されます。
- 本JASでは、高付加価値やこだわりのある規格（特色のある規格）に対するマークとして特色JASマークが製品に貼付されます。
- JASマークとともに表示される識別番号や二次元コード等により、農産物の品質維持のための適切な管理が見える化されます。

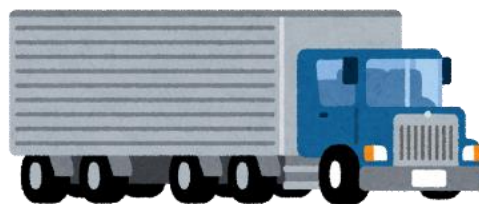
### 例：メロン

生産者：出荷



- 識別番号付加
- 緩衝材の適用
- 出荷情報の登録

流通業者等



- 低温管理
- 衝撃管理
- 温度保持・追熟抑制管理

小売店等：農産物の入荷



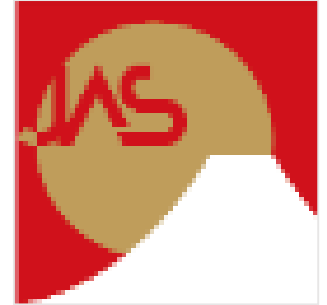
- 流通行程管理記録を検査し格付
- JASマークを貼付



## －要求事項

### 本JASの要求事項

- ① 識別番号の付与及び保持
- ② 流通行程管理基準に従った管理
- ③ フードチェーン情報の記録・保存及び公表



### －流通行程管理基準とは

- 農産物の出荷時の品質を維持するために必要な流通行程に係る管理基準
- 現在、**レタス、メロン及びぶどう**について流通行程管理基準が設定されている

### －フードチェーン情報とは

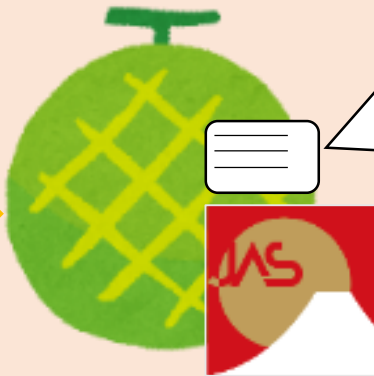
- 流通行程管理基準の適用状況を含む、トレーサビリティによって追跡可能な、農産物の履歴、適用、移動及び所在に係る情報

## －表示と消費者へ見える化

- 商品の生産者情報や流通情報を知りたいという消費者のニーズを満たすため、本JASでは、製品にJASマークを貼付するほか、表示事項として、① “フードチェーン情報公表農産物” という用語、② 識別番号、③ フードチェーン情報の公表の方法（ホームページアドレス、二次元コード等）を製品に表示します。
- 消費者は「フードチェーン情報の公表の方法」をもとに、スマートフォン等の端末からフードチェーン情報入手できます。

### 小売店等

入荷



① フードチェーン情報公表  
農産物 メロン

② 識別番号  
ABC123



販売

- 流通行程管理記録に基づきJAS格付
- JASマークの貼付
- 表示事項の表示

### 消費者

フードチェーン  
情報公表  
農産物  
メロン



出荷日 ○○/○/○

出荷先 ○○○

出荷元 □□□

低温管理



# スマートフードチェーンプラットフォーム（SFP）

農産物の生産から販売までの一貫したデータ情報連携基盤



## 識別番号

### フードチェーン情報：

- －農産物の履歴
- －流通行程管理基準（温度、湿度、衝撃等）の適用
- －農産物の移動及び所在

フードチェーン情報

## 生産者

流通荷口ごとに識別番号を発行、ラベルとして添付したうえで緩衝材・MA包装等の農産物への適用を登録するとともに、トレーサビリティの出発点としての出荷登録を実施。

## 流通業者等

各流通業者において、入荷処理及び出荷処理を行う。適宜、温度・衝撃等のセンサー情報を情報基盤に登録する。

## 小売店等

入荷処理を行うとともに、格付担当者が識別番号に紐づいたフードチェーン情報を基に規格への適合性を評価することによって格付検査を実施し、JASマークを貼付する。

1. JASにできること
2. フードチェーン情報公表農産物JASについて
- 3. フードチェーン公表農産物JASの概要**
  - 研究開発の出口戦略としての標準化 –
4. フードチェーン情報公表農産物JASの利用
  - JASアプリを中心に –
5. 研究開発の出口戦略としてのJAS化の意義

# フードチェーン情報公表農産物JASの概要

- 研究開発の出口戦略としての標準化 -

2024年02月20日

---

一般社団法人スマートフードチェーン推進機構  
理事

名取雅彦

# 本日の内容

1. スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）とは

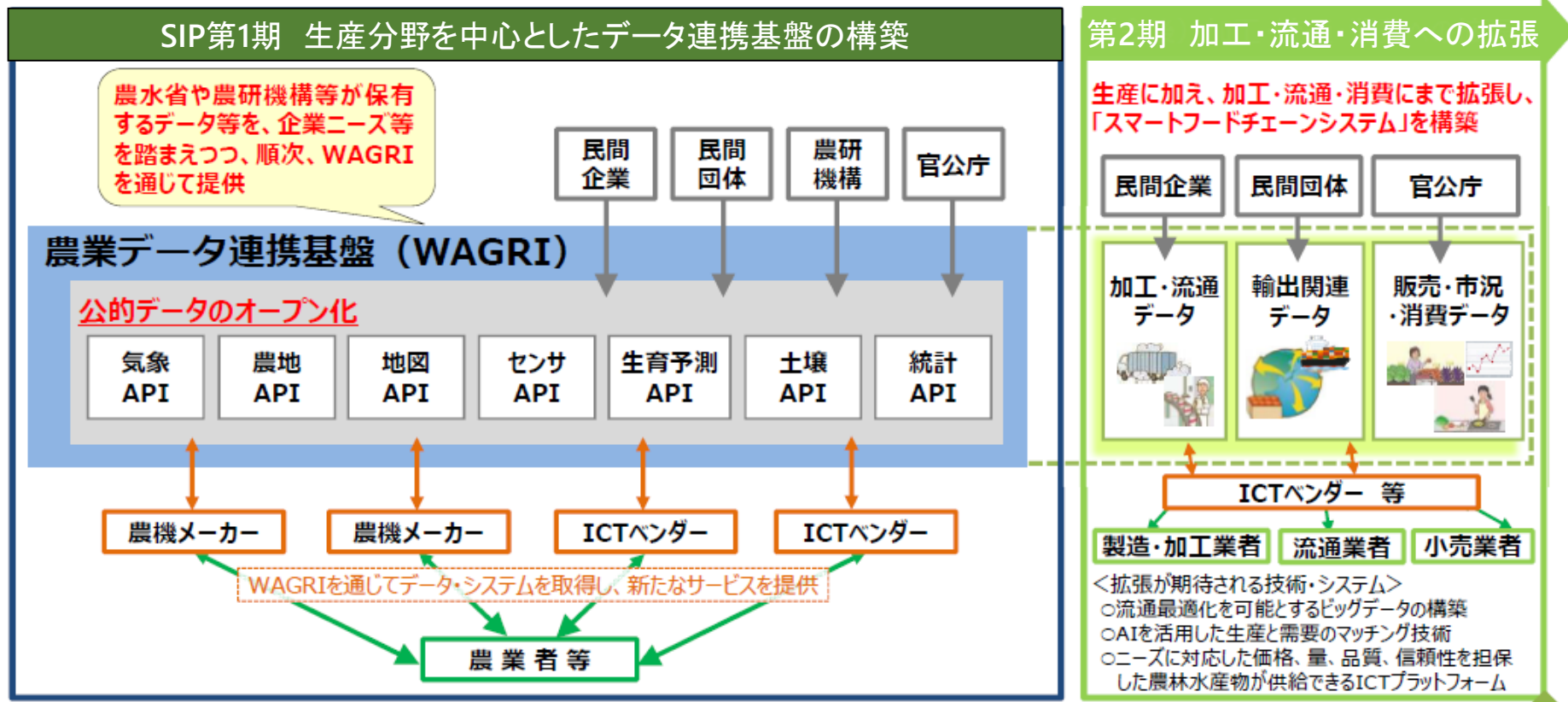
2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計

3. 運用体制の構築

4. 研究開発の出口戦略としての標準化

## SIP第2期では、生産・加工・流通・消費をつなぐスマートフードチェーンシステムの構築を推進

- 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) とは、科学技術イノベーション実現のための国家プロジェクト
- SIP第1期では、次世代農林水産業創造技術として、農家向けサービスの充実、新規創出を促進する農業データ連携基盤WAGRIを構築
- SIP第2期「スマートバイオ・農業分野」では、生産を中心とするWAGRIの機能を、加工・流通・消費にまで拡張し、スマートフードチェーンシステムの構築を推進



# 1. スマートフードチェーンプラットフォーム (ukabis) とは | 流通行程の現状とあるべき姿



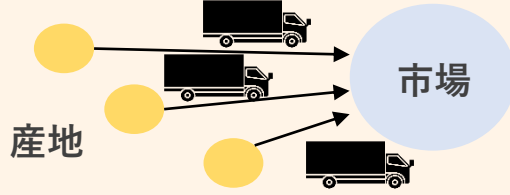
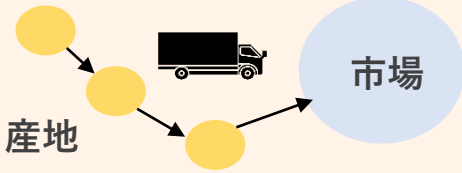
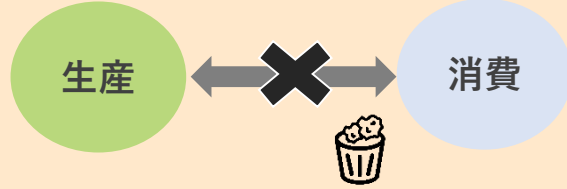
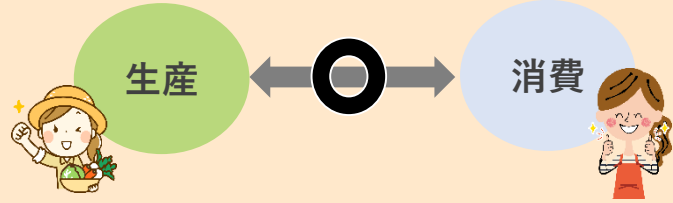

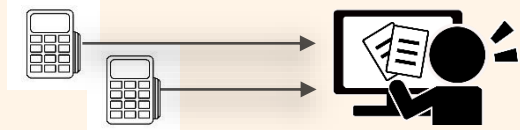
スマートフードチェーンプラットフォームは、入口（生産）から出口（消費）までの情報を連携・集積し、生産の高度化、販売における付加価値向上、流通最適化等を可能とする





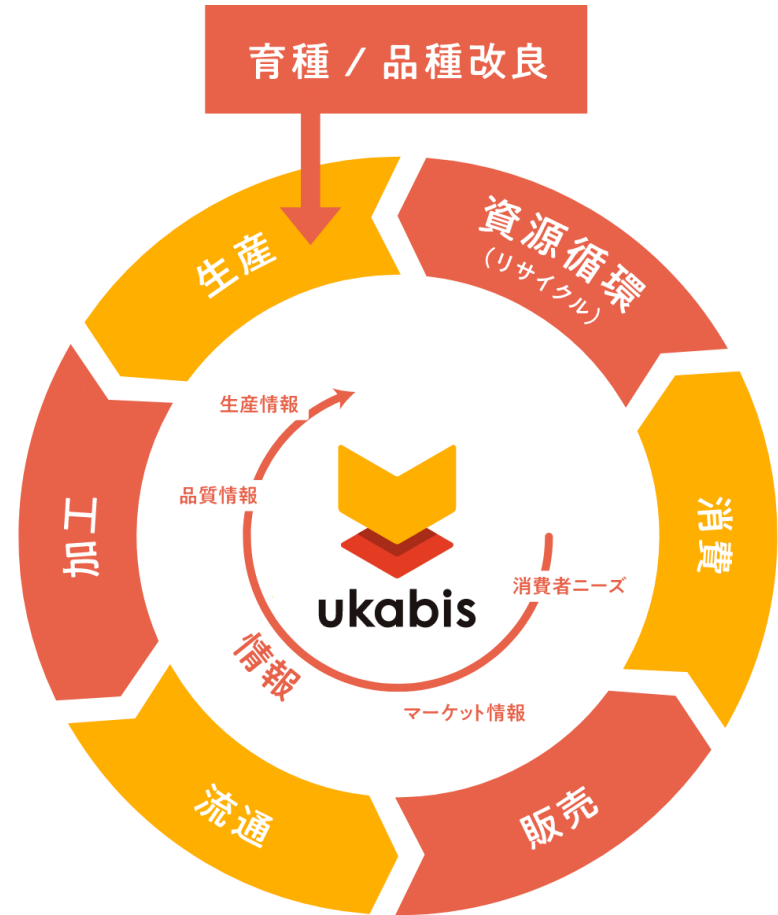
1. スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）とは | 期待される効果

スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）を基盤として提供されるソリューションによる効果例

区分	ソリューション	これまで	これから
小売	店頭プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>「本当に朝採れなの？」という顧客の疑問に答えられない。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>本物であることをデータで示すことができる。</li> </ul> 
流通	物流需給マッチング	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地で十分に荷物を詰め込めずに出荷する場合がある。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地リレー方式で効率的な共同物流を行うことができる。</li> </ul> 
生産	精密出荷予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>需給マッチングが行えずフードロスが発生する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>需要予測を踏まえた生産コントロールができる。</li> </ul> 
輸出	輸出トレーサビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>偽物が出回っているが、産地証明が難しい。</li> <li>輸出の必要情報を整理するのに手間取る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単に産地証明ができる。</li> <li>輸出書類を効率よく作成できる。米国トレーサビリティ規制にも対応できる。</li> </ul> 

## スマートフードチェーンプラットフォームは、スマートフードシステムを支える情報連携基盤

- 高まる消費者の食品の鮮度や品質に対するニーズへの対応、フードロスの削減を実現するためには、フードチェーン（食の生産、加工・流通、販売・消費、資源循環、育種/品種改良）の変革が必要
- これらの課題に対応するため、SIP第2期では、「食」のサステナビリティに資する「スマートフードシステム」の実現をめざす研究開発を実施
  - 農業のサステナビリティ
  - 食材・食品のサステナビリティ
  - 「食」関連資源・環境のサステナビリティ
- スマートフードチェーンプラットフォーム「ukabis」は、スマートフードシステムを支える生産、加工・流通、販売・消費、資源循環、育種/品種改良におけるデータ共有を可能とする情報連携基盤



食のサステナビリティ



+



=



※商標申請中

# 本日の内容

1. スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）とは

2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計

3. 運用体制の構築

4. 研究開発の出口戦略としての標準化

## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 規格制定のねらい

規格制定のねらいは、「よいもの」が「よい状態で」運ばれていることを保証すること  
安心感向上、製品のブランド化、高付加価値化を推進

### 生産段階の品質保証



生産者番号表示

生産者・販売店紹介

生産者名をサイトに表示



### 流通段階の品質保証



●●農産物  
▽▽運輸





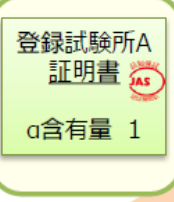
- 安心感向上
- 製品のブランド化
- 高付加価値化

- どこで、誰が生産したかを証明

- 輸送ルート(トレーサビリティ)を証明
- 輸送環境を証明

## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 規格としての新しさ

規格の検討に当たって、これまで「**産品（もの）**」ベースで、**流通プロセス**を保証するJAS規格が活用されてこなかったことに着目。ukabisを用いて技術的課題をブレイクスルー

		JAS制度で定められる規格	生産プロセスの規格化（有機JAS、生産情報公表JAS等）	
		対象	内容（例）	JASマーク
産品	① 品質・仕様	特定の原材料、成分等の農林水産品・食品の規格		
	② 生産プロセス 流通プロセス	特定の栽培法・製法で生産された農林水産品・食品の規格 など		
事業者	③ 産品の取扱方法	事業者による特定の栽培管理や飼養管理、品質・衛生管理、保管・輸送管理、販売管理、料理の調理や提供方法の規格 など 官能評価員など、技量・力量に関する規格 など		
	④ 経営管理方法	事業者による労務管理、社会貢献に関する規格 など		
⑤ 試験方法		成分の測定方法・DNA分析方法の規格 など		
⑥ 用語		①～⑤に関する用語の定義	—	

規格なし



出所)農林水産省資料に加筆

## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 規格適用のイメージ

売場の商品やPOPに、流通行程の管理基準を満たすことを、JASマークの表示で保証する規格を構想

売場の表記イメージ



個別製品の表記イメージ



<http://www.kingofkinoko.com/2017/06/2252/>に加筆

基準の詳細表示も可能

### 認証情報の商品への添付例

任意表示情報

フードチェーン情報公表農産物 レタス (朝採れ、予冷・低温管理)  
 識別番号: ××××××  
 フードチェーン情報公表の方法: [http://\\*\\*\\*.co.jp](http://***.co.jp)

流通行程管理基準 「朝採れ」「予冷・低温管理」に係る基準を充足

生産者	出荷日、生産者の氏名または名称・住所・連絡先、取得認証
流通行程管理者	入荷日、流通行程管理者の氏名または名称・住所・連絡先、取得認証

任意表示情報

※出荷箱を産品単位として取扱  
 ※小分け業者は、個別産品、POP等  
 に上記情報を表示可能

情報公表URL  
[http://\\*\\*\\*.co.jp](http://***.co.jp)

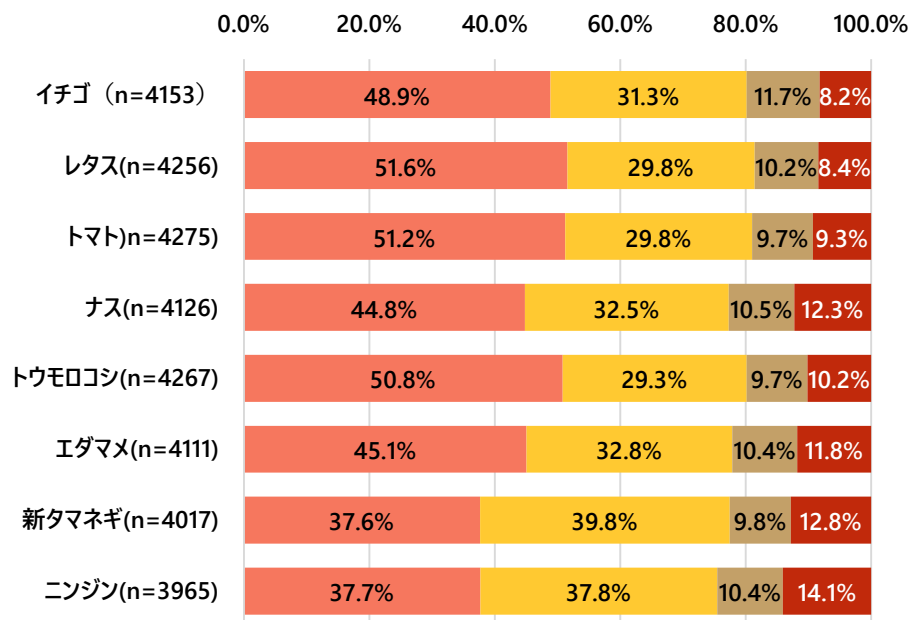
### WEBにおける情報提供



## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | フードチェーン情報への期待

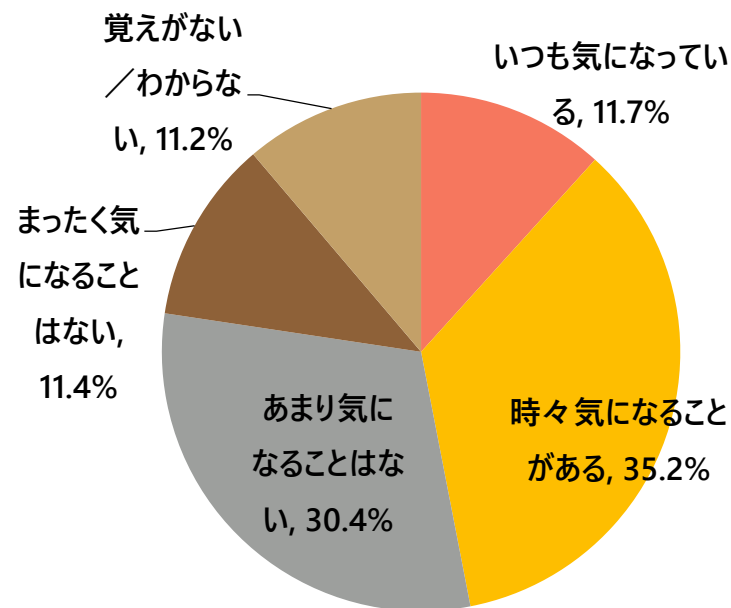
「朝採れ」農産物を購入したいという意向は確実に存在（認知・購入意向者が4～5割）  
一方、「朝採れ」の農産物に対して、本当に朝採れたものなのか疑問をもつ消費者はほぼ5割

### 朝採れ製品の認知度と購入意向



- 朝採れがあることを知っており、購入したい
- 朝採れがあることを知らなかったが、購入したい
- 朝採れがあることを知っているが、購入したくない
- 朝採れがあることを知らなかったし、購入したくない

「朝採れ」の農産物が、本当に販売当日の朝収穫されたのか気になることがあるか。



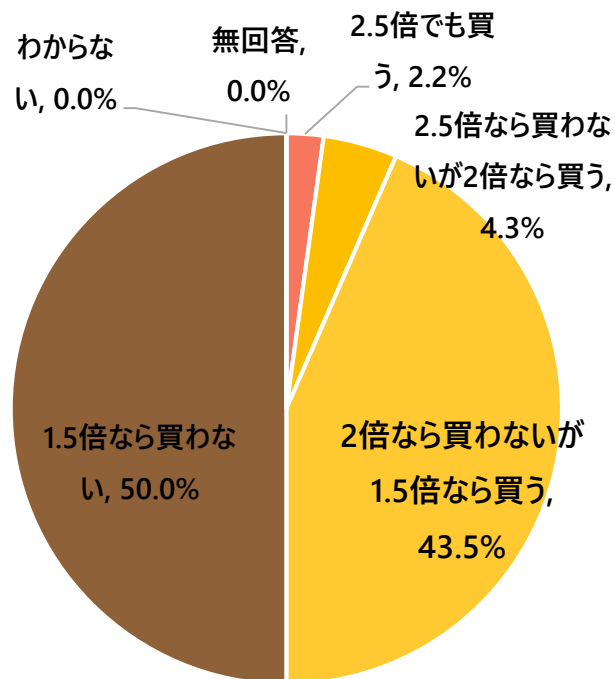
出所) 「青果物に関するアンケート調査」(2022年7月実施)

注) FASTASKを用いて、で20歳以上、ふだん野菜や果物を購入することがあるという回答者5,373人を対象に調査

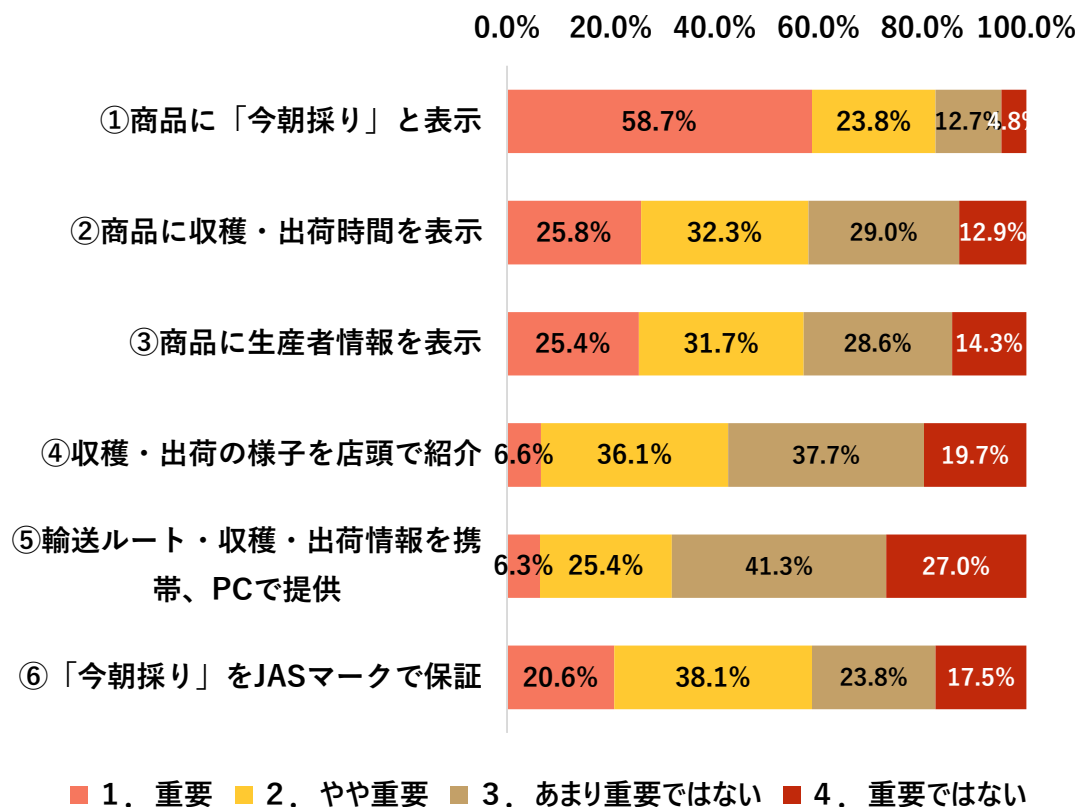
## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | フードチェーン情報への期待

実証では、「今朝採りレタス」を通常レタスの1.5倍でも購入したいという購入者が5割を超えた。安心して購入するための情報としてJAS規格に対する期待も高い。

「今朝採りレタス」に対する支払い意思



「今朝採り」をどのようにして示せば、安心して買うことができるか



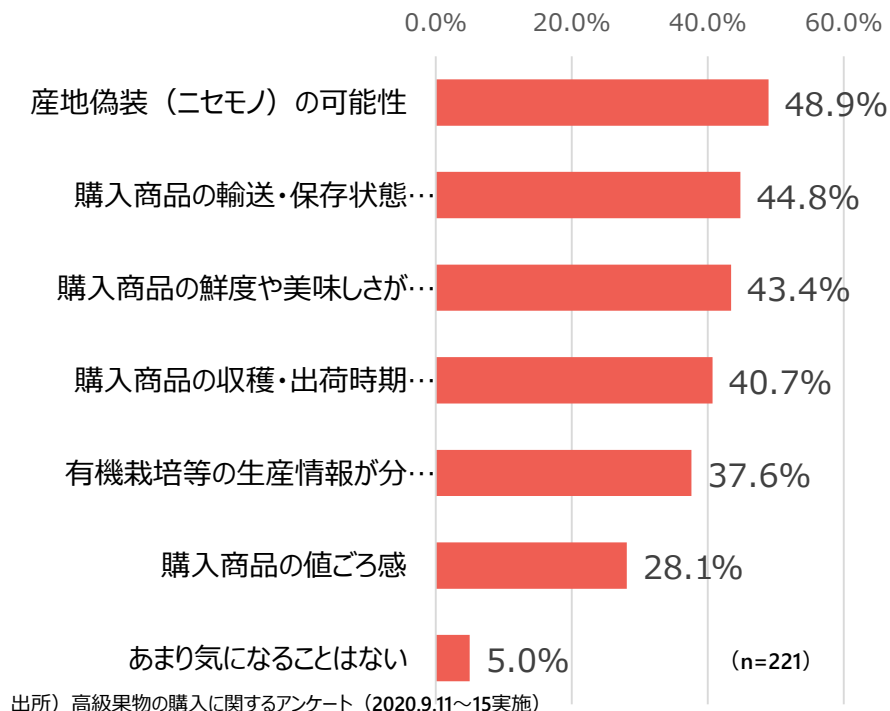
出所) 今朝採りレタスに関するアンケート (2020.8.29実証)  
(N=46、不明、無回答を除く)



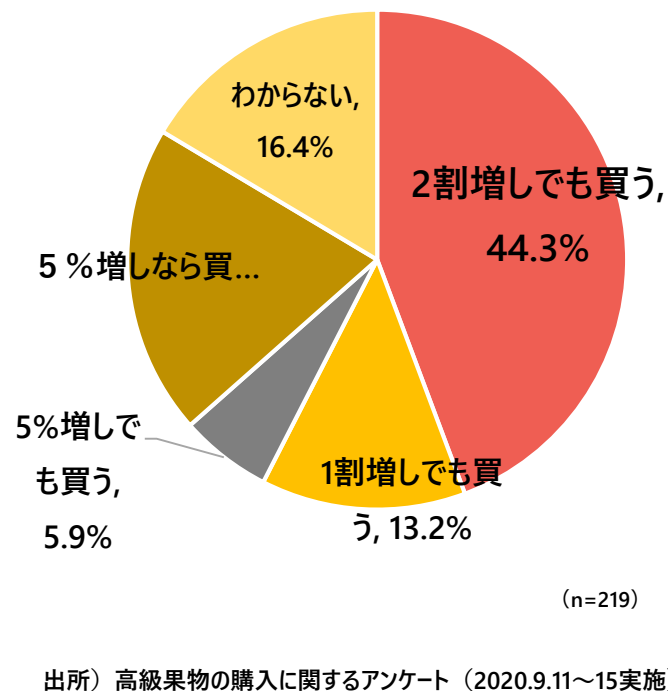
## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | フードチェーン情報への期待

高級ブドウ、メロンなどの贈答品購入者に対する調査では、産地偽装（偽物）の可能性を気にかけるという回答が多い。贈答用の場合、品質が保証されれば、価格は2割増しでもよいという回答が4割を占める。

生鮮農産物（贈答用）を購入する際に気になること



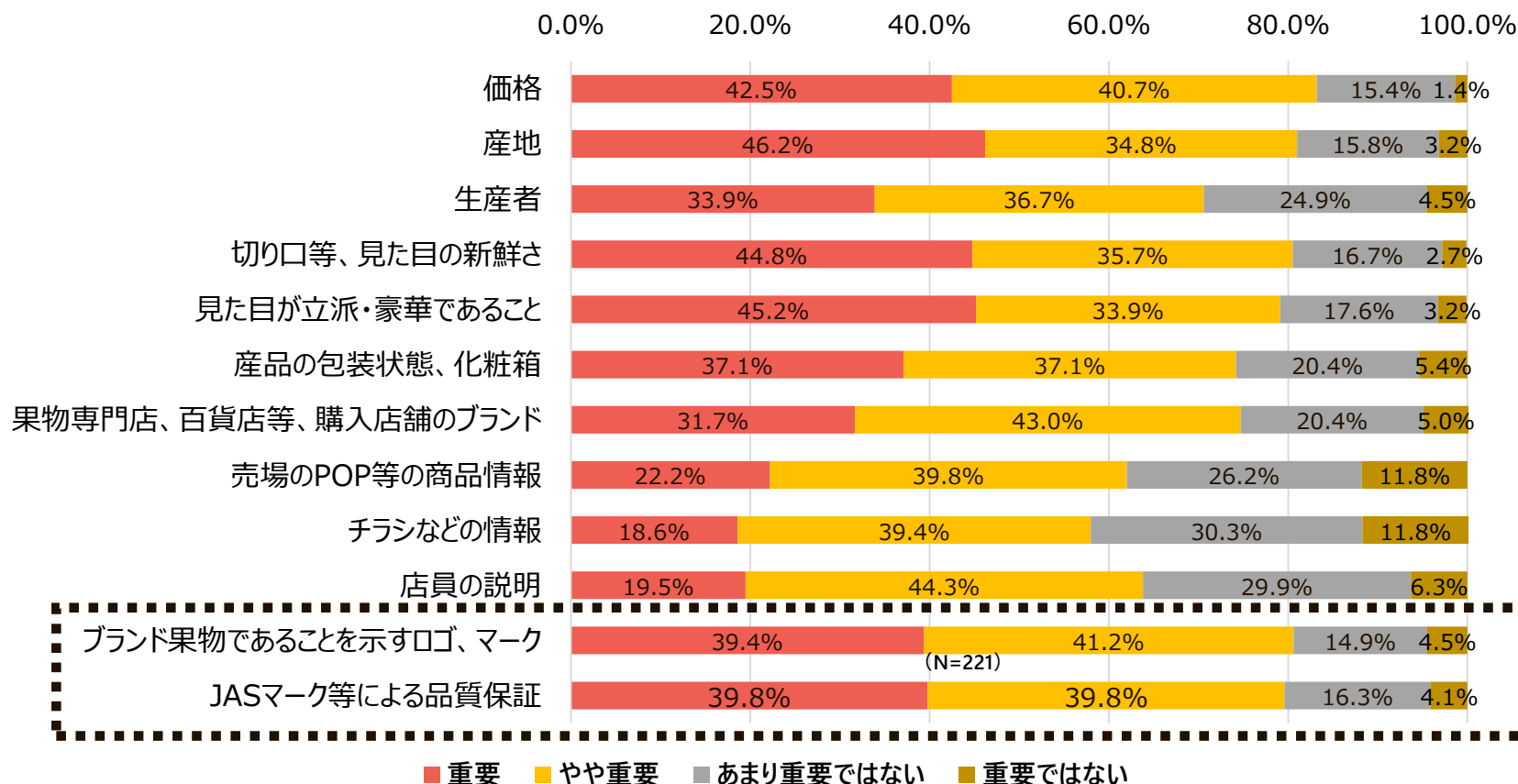
生鮮農産物（贈答用）の品質保証に対する支払い意向



## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | フードチェーン情報への期待

高級果物を購入する場合、JASマーク等による品質保証が、ブランドマークと同様に重視されている

### 高級果物を購入する際に重視すること



出所) 高級果物の購入に関するアンケート (2020.9.11~15実施)

## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | フードチェーン情報への期待

「産地偽装、ニセモノ対策」は、輸出の推進に当たっても重要な課題  
流通行程の品質を保証するJASは輸出事業者のニーズに適合

韓国大手百貨店で販売された「ルビーロマン」



出所) 中日新聞 (2021/8/28)

日本産青果物の偽物販売例



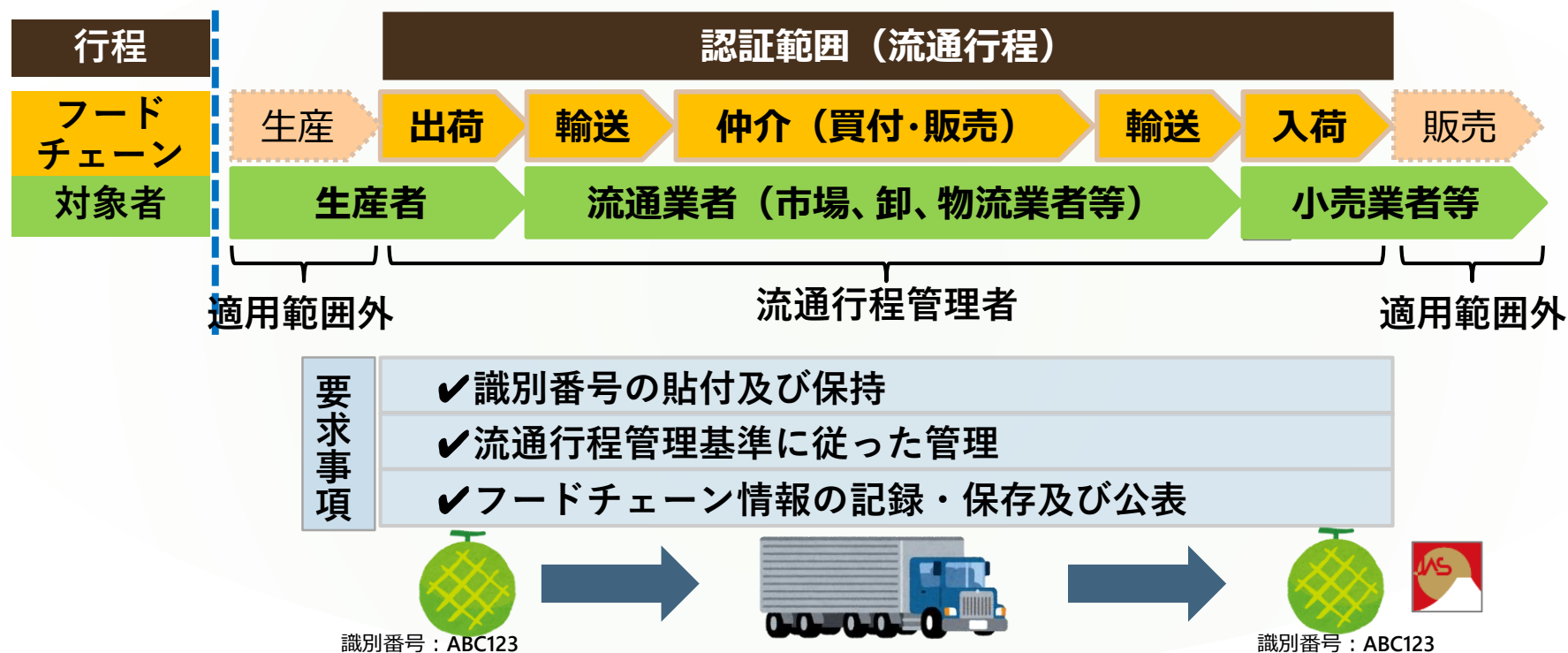
出所) 各種資料をもとに編集



## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 規格の認証範囲と要求事項

認証対象となる「流通行程」は、生産者の出荷から小売業者等の入荷までのプロセス  
プロセスを担う「流通行程管理者」について、3つの「要求事項」を規定

### フードチェーン情報公表JASの認証範囲と要求事項



## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 規格の認証範囲と要求事項

フードチェーン情報公表JASが求める3つの要求事項を満たすために、ukabisが有効な情報連携基盤を提供



### 3つの要求事項

- ・識別番号の貼付及び保持
- ・流通行程管理基準に従った管理
- ・フードチェーン情報の記録・保存及び公表

## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 規格の認証範囲と要求事項

流通工程管理基準は、科学的データを収集し品目別に設定

例えば、結球レタスの場合、「予冷・低温管理」「朝採れ」を流通工程管理基準として設定

### ◆結球レタスに関する出荷後の流通行程における品質維持に適正な基準の設定例

項目	品種・種類・系統	基準例	備考
予冷・低温管理	結球レタス	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷前に、レタスの中心温度を0℃～10℃にするよう管理する。</li> <li>出荷後の低温管理基準の設定例                             <ul style="list-style-type: none"> <li>配送・保管温度に関する適正な温度範囲：0℃～15℃</li> <li>低温管理ができない状況での許容される温度範囲：15℃～30℃</li> <li>低温管理ができない状況での許容される積算時間：1時間</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的なデータに基づき、種類・品種・系統ごとに、品質を維持するのに適正な温度範囲、許容される積算時間を設定して管理</li> </ul>
朝採れ	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>午前0時から午前9時までの間に収穫したレタスを、収穫の当日中に小売店等で販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意表示事項</li> </ul>



## アールスメロンの場合、「低温管理」「衝撃管理」「湿度保持・追熟抑制管理」を流通工程管理基準として設定

◆アールスメロンの出荷後の流通行程における品質維持に適正な基準の設定例

項目	品種・種類・系統	基準	備考
低温管理	アールス系夏系品種	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な温度範囲：10℃～30℃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的なデータに基づき、種類・品種・系統ごとに、品質を維持するのに適正な基準を設定</li> </ul>
	アールス系春秋系品種及びアールス系冬系品種	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な温度範囲：10℃～20℃</li> </ul>	
衝撃管理	アールス系品種	<ul style="list-style-type: none"> <li>許容される衝撃の上限：60 G (588 m/s<sup>2</sup>)</li> <li>許容される衝撃の回数：1回</li> <li>※測定測定サンプリング間隔周期：1.25ms</li> <li>※包装条件：1箱6玉で底面に緩衝材を敷いた状態</li> </ul>	
湿度保持・追熟抑制管理	アールス系品種	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿度保持及び追熟抑制が行える条件：出荷時に MA 包装を適用する。</li> </ul>	



## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 規格の認証範囲と要求事項

### ぶどうの場合、「低温管理」「衝撃管理」「湿度保持・防カビ管理」を流通工程管理基準として設定

◆ぶどう（ルビーロマン）の出荷後の流行程における品質維持に適正な基準の設定例

項目	品種・種類・系統	基準	備考
低温管理	ルビーロマン	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な温度範囲：0℃～10℃</li> <li>許容される温度範囲：10℃～30℃</li> <li>許容される積算時間：3時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的なデータに基づき、種類・品種・系統ごとに、品質を維持するのに適正な基準を設定</li> </ul>
衝撃管理	ルビーロマン	<ul style="list-style-type: none"> <li>許容される衝撃の上限：60 G (588 m/s<sup>2</sup>)</li> <li>許容される衝撃の回数：5回</li> <li>※測定測定サンプリング間隔周期：1.25ms</li> <li>※包装条件：1箱4房で厚さ30mm程度の発泡ウレタン緩衝材を敷いた状態</li> </ul>	
湿度保持・防カビ管理	ルビーロマン	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿度保持及び防カビが行える条件：出荷時に MA 包装を適用する。</li> </ul>	





## ぶどうの場合、「低温管理」「衝撃管理」「湿度保持・防カビ管理」を流通工程管理基準として設定

◆ぶどう（シャインマスカット）の出荷後の流通过程における品質維持に適正な基準の設定例

項目	品種・種類・系統	基準	備考
低温管理	シャインマスカット	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な温度範囲：0℃～10℃</li> <li>許容される温度範囲：10℃～30℃</li> <li>許容される積算時間：3時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的なデータに基づき、種類・品種・系統ごとに、品質を維持するのに適正な基準を設定</li> </ul>
衝撃管理	シャインマスカット	<ul style="list-style-type: none"> <li>許容される衝撃の上限：30 G (294 m/s<sup>2</sup>)</li> <li>許容される衝撃の回数：3回</li> <li>※測定測定サンプリング間隔周期：1.25ms</li> <li>※包装条件：1箱8房でフルーツキャップ等を適用し、発泡ネットシートを敷いた状態</li> </ul>	
湿度保持・防カビ管理	シャインマスカット	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿度保持及び防カビが行える条件：出荷時に MA 包装を適用する。</li> </ul>	



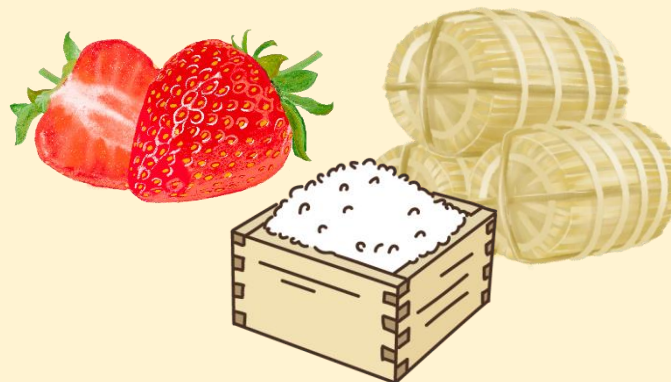
## 2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計 | 対象品目

2022年度にレタス、メロン、ぶどうで制度化。2023年度はいちご、米を追加申出  
その他の農産物の申請も可能、水産物等への拡張も考えられる。

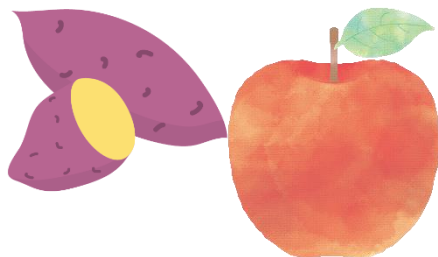
規格対象品目（2022年度）



追加予定品目（2023年度）



ニーズに応じて将来的に対象品目を拡張



# 本日の内容

1. スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）とは

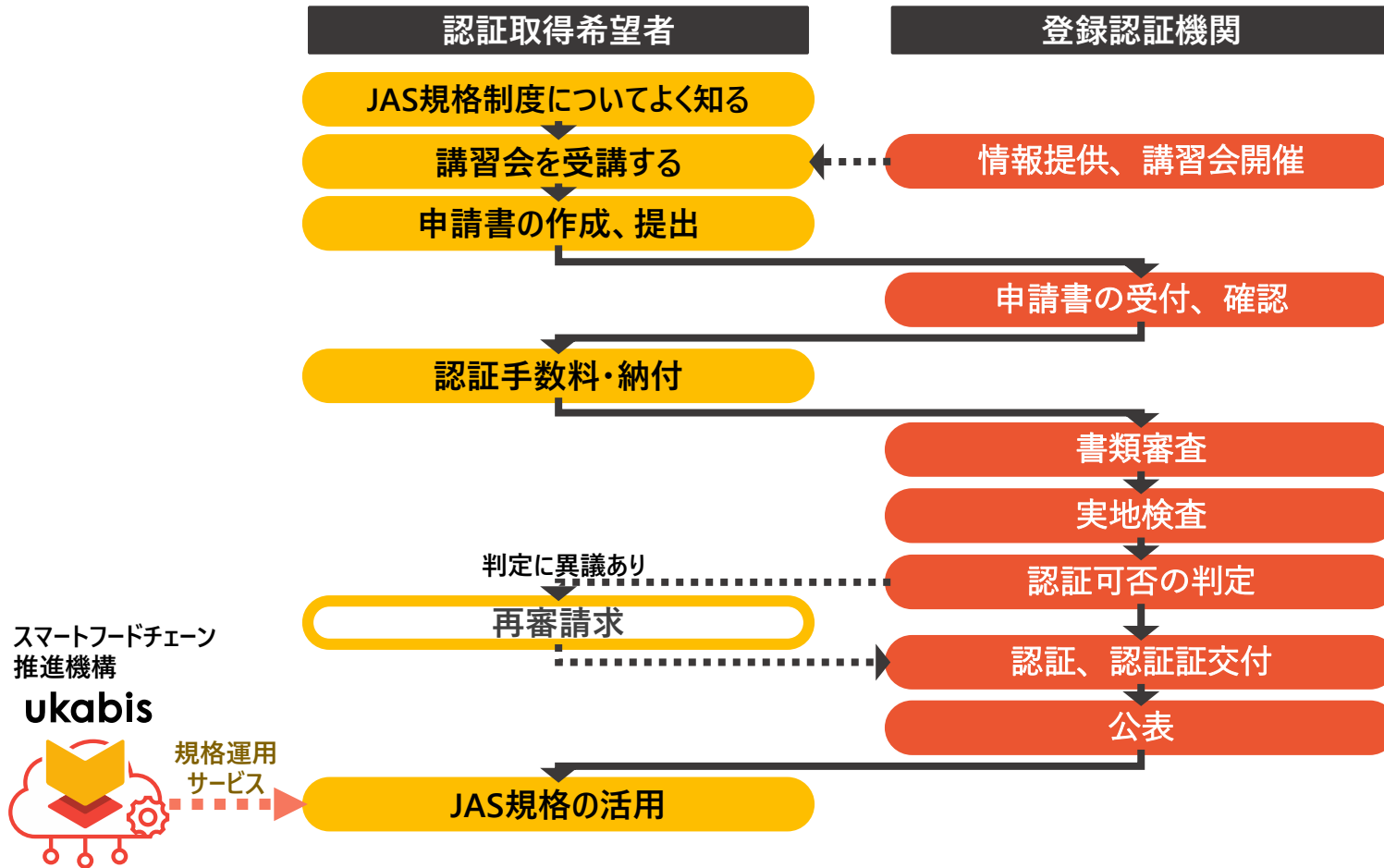
2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計

3. 運用体制の構築

4. 研究開発の出口戦略としての標準化

### 3. 運用体制の構築

## 株式会社オーガニック認定機構が認証サービスを提供 (一社) スマートフードチェーン推進機構が認証支援アプリを提供



株式会社オーガニック認定機構 (OCO)  
<https://oco45.net/>

※JASパッケージの提供

# 本日の内容

1. スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）とは

2. フードチェーン情報公表農産物JASの規格設計

3. 運用体制の構築

4. 研究開発の出口戦略としての標準化

#### 4. 研究開発の出口戦略としての標準化

データ連携基盤を活用した規格化は世界に類のない仕組み  
規格化を通じて、研究開発成果を活かした新しい社会システムの定着を推進



フードチェーンにおける情報連携の実現



フードチェーン情報  
公表農産物JAS

フードチェーン情報の保証



消費者の安心感向上  
農産品の高付加価値化  
輸出拡大



1. JASにできること
2. フードチェーン情報公表農産物JASについて
3. フードチェーン公表農産物JASの概要  
– 研究開発の出口戦略としての標準化 –
- 4. フードチェーン情報公表農産物JASの利用**  
– JASアプリを中心に –
5. 研究開発の出口戦略としてのJAS化の意義

# フードチェーン情報公表農産物JASの利用

- JASアプリを中心に -

2024年02月20日

---

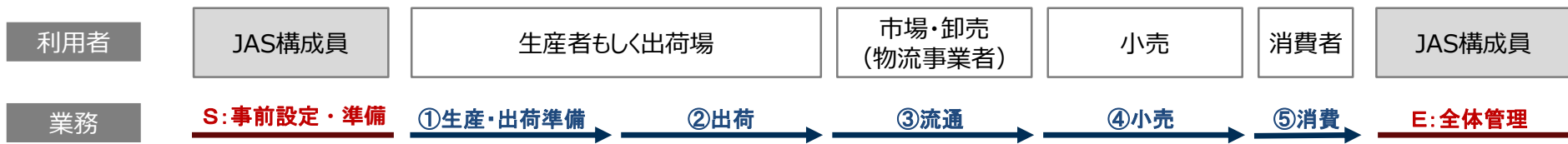
一般社団法人スマートフードチェーン推進機構  
理事

名取雅彦



## 1. 規格運用の流れとJASパッケージ

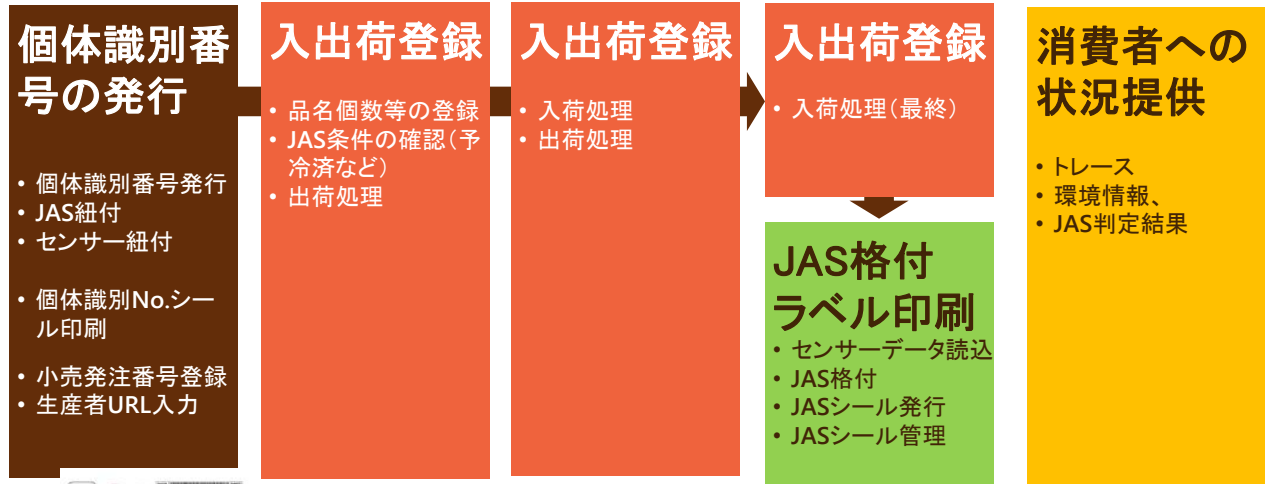
---



流通工程の管理

- ・ 識別番号の発行
- ・ フードチェーン情報の記録

情報の公表



## 2. 個体識別番号の発行とセンサー登録

---

# 個体識別IDラベルの発行

**ukabis 個体識別IDラベル発行システム**  
印刷する商品をリストから選択してください  
※リストにない商品は印刷できません

品名	産地	商品CD
いちご	栃木	4912345678904
商品①	産地①	1111111111111
商品②	産地②	2222222222222
商品③	産地③	3333333333333
商品④	産地④	4444444444444
商品⑤	産地⑤	5555555555555
商品⑥	産地⑥	6666666666666

戻る

**ukabis 個体識別IDラベル発行システム**  
印刷に必要な項目を入力してください  
商品：商品① 産地：産地①

小売店発注No.

BOX No.

品質評価サイトURL

パスワード

予冷温度  -  °C

MAフィルム包装  確認

戻る 設定

**ukabis 個体識別IDラベル発行システム**  
発行開始を押すとラベルを印刷します。

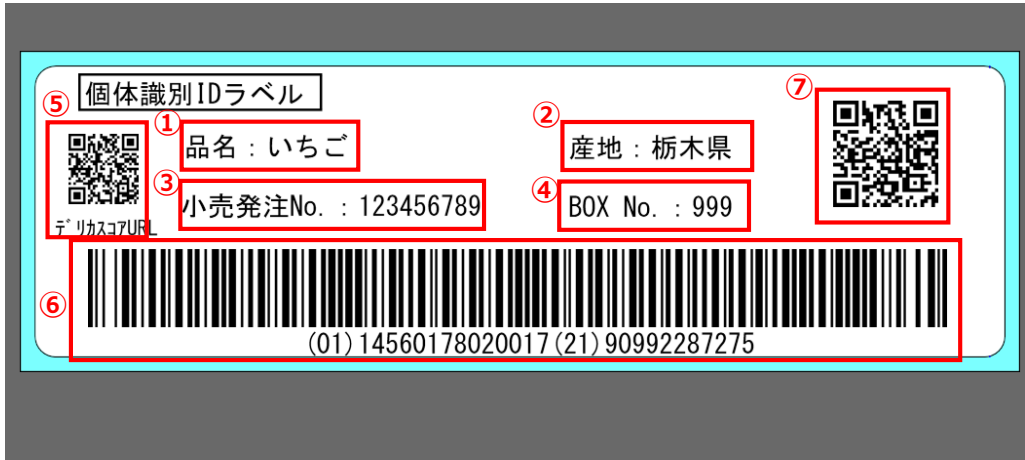
品名：XXXXXXXXXX  
産地：XXXXXXXXXX  
小売店発注No.：XXXXXXXXXX  
BOX No.：XXXXXXXXXX  
品質評価サイトURL：http://……  
パスワード：XXXXXXXXXX

予冷温度 2 °C  
MAフィルム包装 確認済

発行枚数  枚

戻る 発行開始

# 個体識別IDラベルのイメージ



## ■ 個体識別ID 採番ルール

01	14560178020017	21	2BA001KU101
↑	↑	↑	↑
AI	GTIN (商品CD)	AI	シリアル

シリアル部(11桁)については、個体識別IDラベル発行サービスにて内部で連番を採番します。

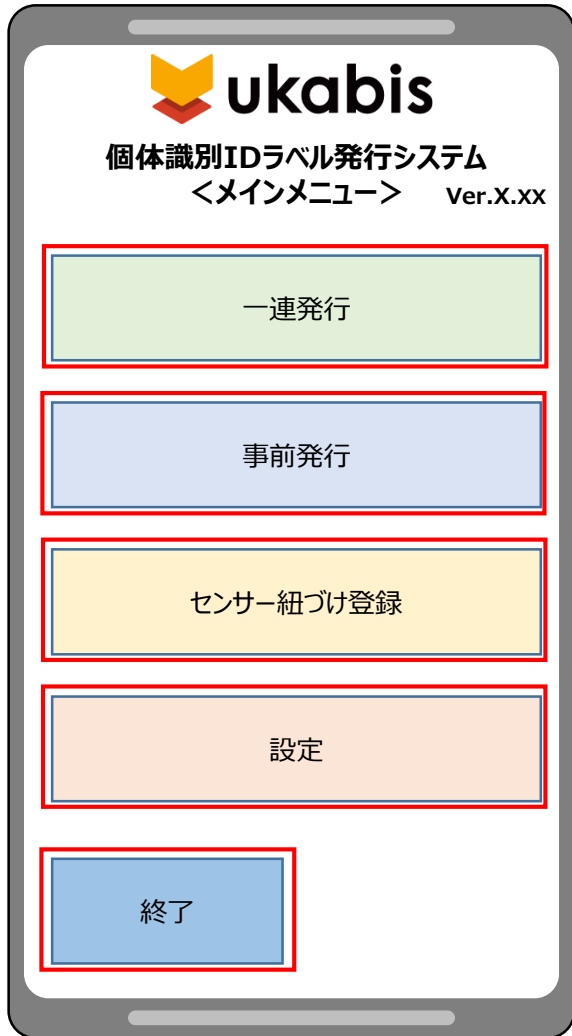
連番を無意に採番した場合には“00000000001”～“99999999999”となりこの時点で連番がサイクルします。

先頭4桁を暗号化日付とする事で、一日の発行可能枚数は約1千万枚までとなりますが長期間利用し続けてもサイクル可能性を回避できます。

上述のいずれかの方法で実装いたします。

<b>&lt;ラベル基本情報&gt;</b> ※ラベルプリンタ発行時。レーザープリンタ使用時はA4サイズ P : 250mm × 1000mm
<b>&lt;可変印字項目①&gt; 品名</b> ukabisのJAS登録情報からAPI連携にて取得 ※品種、品名、商品名 いづれを採用するかは要検討
<b>&lt;可変印字項目②&gt; 産地</b> ukabisのJAS登録情報からAPI連携取得 未登録の場合には項目表示ごと非表示とする ※APIによる取得方法を検証中
<b>&lt;可変印字項目③&gt; 小売発注No.</b> 発行時に作業者が手入力 (またはバーコード読み取り) 未入力の場合には項目表示ごと非表示とする ※最大桁数・文字種の情報が必要
<b>&lt;可変印字項目④&gt; BOX No.</b> 発行時に作業者が手入力 (またはバーコード読み取り) 未入力の場合には項目表示ごと非表示とする ※最大桁数・文字種の情報が必要
<b>&lt;可変印字項目⑤&gt; 品質評価サイトURL</b> 発行時に作業者が手入力 (またはバーコード読み取り) 未入力の場合には項目表示ごと非表示とする ※最大桁数・文字種の情報が必要
<b>&lt;可変印字項目⑥&gt; 個体識別IDバーコード (GS1-128バーコード)</b> 選択した商品からシステムにて自動的に採番する ※自動採番ルールについては別表「個体識別ID採番ルール」参照
<b>&lt;可変印字項目⑦&gt; Viewerサイト</b> システムにて採番した個体識別IDに固定のURLを付与 読取りによりViewerサイトに誘導するQRコード

# センサーとの紐づけ・登録



### 3. 入出荷登録、格付とラベルの印刷

---

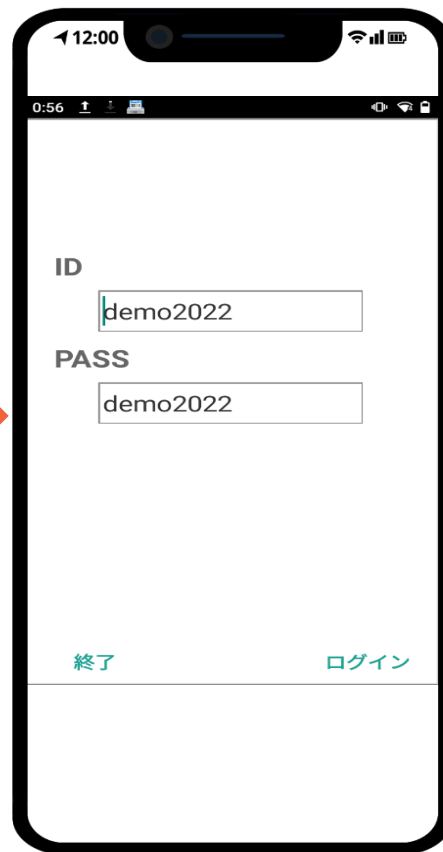
# 入出荷登録とJAS格付けアプリ

## 入出荷登録アプリ



入出荷処理完了

## JAS格付アプリ



ログイン



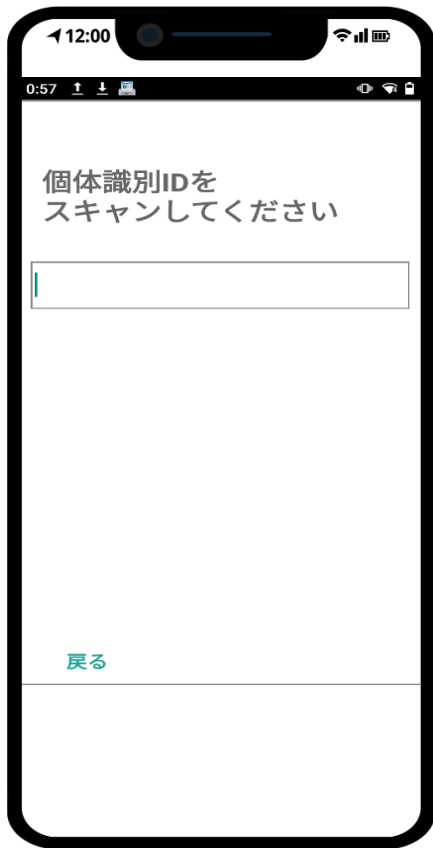
メニュー選択



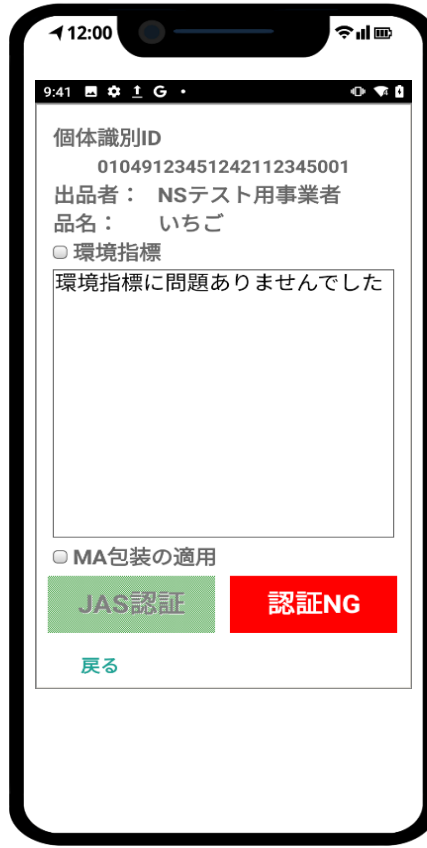
# JAS格付とラベル印刷

格付  
ラベル  
印刷

識別番号選択



格付確認



発行枚数確認・印刷



ラベルプリンター



## 4. 消費者への情報提供

---

# 消費者Viewerのイメージ

小売りの店頭



(仮address) [https://www.warqidev\\_sip2.jp/](https://www.warqidev_sip2.jp/)  
 Knumber=01045257710000051097657415790  
 QRの中のURLより起動する  
 該当個体識別ナンバーの照会

WEBサイトへ一発接続!

### JAS関連情報

フードチェーン  
情報公表農産物  
メロン

流通工程管理基準  
「低温管理」「衝撃管理」  
「湿度保持・追熟管理」

品名

出荷先 (荷受人)  
・氏名又は名称  
・住所

出荷元 (荷送人)  
・氏名又は名称  
・住所

荷姿

数量

### 環境指標

SFP ユーザー名 田中 太郎様  
 個体識別No. 01045257710000051097  
 出荷者 A1農場  
 品名 クラウンメロン

トレース 環境指標 栽培情報

※以下はモックのみの画像情報です※  
 2/2 D1小売店入荷分  
 JAS認定 合格  
 センサーNo: S0001601018

JAS

【湿度】

【温度】

【糖度】

センサー  
情報公開

制限あり  
トレース情報

公開  
栽培情報

栽培情報

### トレース情報

SFP ユーザー名 田中 太郎様  
 消費者 田中 太郎様  
 個体識別No. 01045257710000051097  
 567415790  
 出荷者 A1農場  
 品名 クラウンメロン

トレース	環境指標	栽培情報
※以下はモックのみの画像情報です※		
日時	種類	数量
02/02 2:50	生育	100個
02/02 5:58	入荷	100個
02/02 7:05	生育	50個
02/02 8:20	生育	40個
02/02 8:01	入荷	50個
02/02 9:04	生育	50個
02/02 10:13	入荷	40個
1:58	入荷	50個
2:45	生育	40個
02/02 14:20	入荷	40個

画像

出荷・入荷画像

個体識別No790

HP

参考 : <https://www.youtube.com/watch?v=VSD4CCPrbHE>

1. JASにできること
2. フードチェーン情報公表農産物JASについて
3. フードチェーン公表農産物JASの概要
  - 研究開発の出口戦略としての標準化 –
4. フードチェーン情報公表農産物JASの利用
  - JASアプリを中心に –
5. **研究開発の出口戦略としてのJAS化の意義**